

会 議 録

1 会議名

第3回「子ども・子育て会議」

2 議題（全て公開）

(1) 施設の利用定員の確認について

(2) 平成31年度当初予算案における主な子育て支援に関する事業について

3 開催日時

平成31年2月26日（火）午前10時から11時20分

4 開催場所

上越市役所木田第1庁舎4階 402・403会議室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：平澤会長、吉澤副会長、武田委員、浦沢委員、古川委員、岡田委員、
椿委員、熊木委員、柳澤委員、室橋委員、吉田委員、植木委員、
閨間委員、中條委員、飯塚委員、阿部委員、柳委員
- ・ 事務局：こども課 宮崎課長、牛木副課長、八木係長、滝澤主任、杉田主任、
藤井主事
- ・ 関係課：保育課 橋本副課長、渡邊係長、
すこやかなくらし包括支援センター 春日副所長、
こども発達支援センター 道場副所長、
教育総務課 金子課長、岩野主任、学校教育課 小林副課長

8 議事内容

(1) 施設の利用定員の確認について

保育課（渡邊係長）：（資料1、2、3、4-1～4-3により説明）

教育総務課（岩野主任）：（資料5-1～5-3により説明）

柳委員：「途中入園がしづらい」ということを聞いている。年度途中で育休から職場復帰したい人が、4月生まれの子どもは途中入園できて、3月生まれは途中入園出来ないという状況の中、これから新しく定員を設定する施設にあたっては、どのように考えているのか。

保育課（橋本副課長）：途中入園の状況ですが、実際に、今年度4月から園運営をしていて、なかなか難しいところがある。年度の途中において、育休復帰をするために保育園に入園申込みをするが、なかなか途中入園が出来なくて、年度末まで育休を延長するということがある。その際は、保育課で、保留通知を出して対応している。今年度の入園申込みは、1歳児の入園が非常に多く、来年度においても途中入園が厳しい状況が続くと思われる。市としては、保育園の子育て支援事業のスペースを活用して、乳児室、保育室に転用したりしながら、なんとか入園児童の受け入れを優先していくということになる。また、入園希望に対応できる保育士の確保が、非常に難しいという状況もある。施設のキャパを増やしつつ、保育士の確保を強化し、対応したいと思っているのが現状である。

柳委員：途中入園のニーズがあるのであれば、保留通知を出した数が出ていると思うので、せめてその見込みで、これだけは確保しますという対応が出来ないのか。

保育課（橋本副課長）：途中入園がどれだけいるのかというのは想像出来るが、施設の定員もあり、プレハブ棟を建てて増やすという方法もあるのかもしれないが、いずれかの時点で児童数も減少してくる。児童数の頭打ちの時期も来るということを前提に、今は途中入園の希望があった場合は、近隣の空いている園を紹介している状況である。

吉澤副会長：具体的に今年度、途中入園出来なかったお子さんは、どの位いるのか。

保育課（橋本副課長）：昨年は190人ぐらいに保留通知を出している。その方たちは、平成31年度から入園するかたちになっている。

吉澤副会長：最長1年まではいかないにしても、結構長い間、入園が保留状態になっていて、新年度4月入園になったということか。

保育課（橋本副課長）：2、3年前までは、秋口からだんだん途中入園が出来なくなってきて、保留通知を出していたが、今年度に関しては、早い時期から、中

心部の園が入れなくなって、保留通知を出したという状況である。

吉澤副会長：施設のキャパを増やすのと、保育士をどう確保するのかという問題もあるので、非常に上越市としては頭が痛いと思うが、保育所というのは、「随時入園できる」ということが保障されていることが、非常に重要な事だと思う。保護者側のニーズもそうですし、子ども側のニーズも重要だと思うので、具体的に解決していく策をこのような会議の場などを使って、検討していくというのもこれから必要かと思う。

保育課（橋本副課長）：施設の面積的に入れないという状況もあるし、面積は確保できるが、保育士が不足しているというケースもある。市では潜在保育士の確保セミナーを実施したり、専門学校、短大等にお伺いして、将来的に上越市の保育士になって欲しい、と要望しているところである。来年度には、市内の専門学校等も開設するので期待しているところである。

吉澤副会長：上越市の保育士の採用状況でいうと、そんなに正規保育士の採用数がないので、結局、非常勤の保育士を採用して、賄っているところが結構ありますよね。

保育課（橋本副課長）：公立保育士の場合は、正規4：非常勤6の割合になっており、正規保育士は、例年8人程度の採用状況となっている。

吉澤副会長：保育所をつくり、働きやすくするという前に、保育をしている方自体を働きやすくしていく必要がある。パートタイムで働くのが良いという方もいるし、一方で長いキャリアを形成していきたいという方もいると思う。ここでどうこう出来る問題ではなく、日本全体の問題だとは思いますが、保育をする方のことも考えていかなければいけないと思う。

平澤会長：上越市全体では、待機や保留している方に関しては大丈夫なのかと思うが、今回定員変更する施設の状況はどうか。

保育課（橋本副課長）：本日の審議をお願いしている施設に関しては、入園の申し込みを受けた時に優先順位をつけさせて頂く。なかには求職活動をやめ点数が低く、希望の園に入れられない方もいるというのが事実である。そのような方は、他の園を紹介するが、その際、就労先や自宅の位置関係を考慮してご紹介している状況である。

平澤会長：議題1の施設の利用定員について、当子ども・子育て会議として「意見

なし」としてよろしいか。

全体：異議なし

(2) 平成 31 年度当初予算案における子育て支援に関する事業について

こども課（滝澤主任）：（資料 6-1～6-3 により説明）

柳委員：基本目標 2「心とからだを健やかに育つまちづくり」の放課後児童クラブの運営費について、費用としてはマイナスだが、拡充になっているのはどうしてか。3 歳、4 歳、5 歳の保育料等が無償化になるが、小学校入学と同時に、学校に払う給食費や働いている方は、放課後児童クラブの利用料などの費用がかかってくる。この場でも色々議論したと思うが、そうした時に予算が増えなくてよいのか。

学校教育課（小林副課長）：放課後児童クラブの運営について、平成 30 年 7 月におやつを提供を廃止させて頂いたので、賄費が減額となっている。拡充部分については、クラブで多様な体験活動をしていただくため、あくまでもお試しだが、遊びの時間に昔の遊びみたいなものを、子どもたちに体験していただくため、今回は小さな金額だが、予算の中にプラスした。その他、子どもたちを見守る支援員は、資格のある方、ない方がいる。資格のある支援員は、学校の教員、保育士、幼稚園の先生などである。支援員同士の関係、支援員と保護者との関係もまだ十分でないクラブもあり、そのようなクラブも平成 31 年度は強化していきたいと思い、資格がない支援員向けに支援員研修の費用も予算要求をさせて頂いた。

柳委員：予算は減っているけれども、運営内容は、拡充していくというところで安心したが、やはり皆さんは、3 歳、4 歳、5 歳は無償、小学校に上がると急にお金がかかるイメージがあると思うので、市としても先回りして小学校に入学した後の費用についても検討が必要と思う。

阿部委員：虐待などや発達支援の問題などで、私も常日頃、すこやかなくらし包括支援センターに大変お世話になっているが、市民の皆さんには名前が長すぎるのではないかと思う。また、すこやかなくらし包括支援センターが、どんな事をするところか、どんな対応をしてくれるところなのか、皆さんに定着していないように感じているので、何かもっと周知するような対応

をお願いします。

すこやかにくらし包括支援センター（春日副所長）：確かに名称につきましては、呼びづらいつか、読みにくいつかご意見を頂く。また、包括支援センターという名称が入っているので、地域包括支援センターと誤解されたり、色々なご意見があるが、やはり私どもの思いとしては、市民の皆様が、すこやかな暮らしのなかで生活して頂きたいというような切なる思いがある。また、福祉交流プラザへの移転につきましては、新聞や報道等でも皆さん既にご存知だと思つうが、今まで、すこやかにくらし包括支援センターは、関係各課との連携のもとで、後方支援的な動きとして活動していた。平成 29 年度には、「支援室」から「支援センター」に名称が移行し、その時には、こどもの発達支援に重点を置きましょうと、保育園等や幼稚園、小、中、高等学校の 18 歳未満までの全員を対象に、すこやかに生活して頂きたいということで、活動を進めてきた。その中で、今年度は、小、中学校、市内の高等学校にまで、具体的な活動について P R をさせて頂いたところである。新年度に入り、また福祉交流プラザに移転させて頂くにあたり、4 月 1 日号の広報上越つか、色々な媒体や活動の中で P R を進めていこうと思つている。

柳澤委員：基本目標 2-2 の中学校学習指導支援事業に、部活動指導員の配置の 15 万 4 千円とあるのは、1 人分の手当だと思つうが、内容がはっきり分からない。具体的にどういつことか。また、今年は 1 人なのだけど、来年度からはどのような方向で配置していく感じになっていくのか、現状でわかっていることを教えてほしい。

学校教育課（小林副課長）：部活動の指導員については、平成 31 年度モデル事業としてやらせて頂く。市内の中学校 1 校をモデル校とし、部活動指導員 1 人を配置する。指導員は、教員の資格を持っている方、教員の OB の方、もしくは日本体育協会のスポーツ指導者制度の競技別指導者の資格を有する方等から選出し、最終的には教育委員会で決定し、その指導員をモデル校に配置して部活動に関わつて頂こうと思つている。平成 31 年度の運営をしてみつて、どのような状況になるかによつて、平成 32 年度をどのようなもつていくのか考えていくという段階である。

中條委員:10月からの保育料等の無償化で市民の皆さんも大いに期待していると思うが、地域で子育てを支えていく、地域子育て支援の13事業があり、放課後児童クラブも13事業の一つである。13事業が充実しているのが上越市のすごいところで、他に先んじて13事業を揃え、それを維持してきているというところが、全国で評価されているところだと思う。その13事業こそが、手薄にならないように、今後も大事にして頂きたいと思う。保育園で待機児童を出さないために、子育てひろばを縮小していくというのは、仕方ないのかなと思うのですが、それが当たり前にならないように、本当に大事な何かということを考えながら進めて頂けたらと思う。結局のところ、待機児童は居ないけど、どうも年度途中で入れないみたいな噂が流れると、みんながちょっと心配になって、少しでも早く保育園に入れようとなってしまう、少子化が進むなか、近所には遊び相手もないし、子どもの為にも保育園に入れちゃった方がいいのではないかと思ってしまう。私としては、まだ働かなくても良いという話は聞くので、そんなに焦らなくても良い方は、ゆっくり地域で過ごせるような体制づくりも大事なんではないかと思う。それと、虐待の予防という点でも、地域の子育て支援拠点が充実しているというのはとても大事だと思うので、そちらを第一に考えて欲しいと思う。すこやかに暮らし包括支援センターと地域の方が連携しながらという事が実際、今は続いていますし、今後も、ますますそういう役割を果たして頂けることを期待している。共働き世帯が増えていく中で、女性の家事労働が増える一方で全然解消されなくて、そこで、今、基本目標3の男女共同参画、ワーク・ライフ・バランスの推進となり、とっても大事だとは思う。資料に、男性の家庭生活への参加を促す啓発活動が出ているが、是非こどもも頑張っていて頂きたいと思う。女性が働きながら家事をするのが当たり前だ、みたいな考えがいつまでも変わらないと、子育てしやすいとは言えないし、女性の負担は増す一方なので、そこも頑張ってもらいたい。

こども課(宮崎課長):中條委員におかれては、子どもを持つ親の相談などに日々対応して頂いているわけで、今の貴重なご意見、重たいご意見だと受け止めている。冒頭、最初に待機児童が増えてしまって、子育てひろばを無くし

てしまうとか、そういったことは、こども課、保育課と連携を取って、どうやっていくのが一番良い対策なのか、そういったところも含めて検討していきたい。それから、最後の男女の共働きということで、女性の家事労働ということは、私も身に染みて分かるところではあるが、だんだんと時代が過ぎていく中で、男女の共同参画ということが声高らかに推進されているわけだが、市全体さらには国全体で考えていかなければいけないことだと思っている。

すこやかなくらし包括支援センター（春日副所長）：虐待予防に関しては、最近新聞報道等で話題になっている。しかし、児童虐待というのは皆さんご存じのとおり、誰もが起きる可能性を秘めているようなものだと私自身は認識している。特別な人だけがやるということではなく、ほとんどの方たちが、育児に疲れていたりだとか、生活困難から発生している場合がある。親御さんたちにも頑張ってもらわなければならないのですが、やはり周りの方たちからも、色々な部分でも理解して頂いたり、支援して頂かないといけない事案なのかと思う。すこやかなくらし包括支援センターも、福祉交流プラザに移転はするが、いろいろな関係課と連携しながら、予防への活動も取り組んでいくし、色々な所に虐待に関する色々な情報を発信する必要があると思っている。そこには、やはり皆さんの中に偏見ですとか、間違った認識をもっていらっしゃる部分も感じているので、新年度はいろいろなところに出向いて、情報発信していきたいと思っている。

(3) その他

特になし

9 問合せ先

健康福祉部こども課企画管理係

TEL：025-526-5111（内線 1221）

E-mail：kodomo@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。